

会 議 録

会議の名称	令和2年度第1回結城市総合教育会議
開催日時	令和2年10月23日 午前9時15分
開催場所	結城市役所 第1委員会室
出席者	構成員 結城市長 小林 栄, 教育長 小林 仁, 教育長職務代理者 北嶋 節子, 教育委員 中村義明, 教育委員 岩崎 勤, 教育委員 赤木信之 構成員以外の出席者 総務部長, 教育部長, 次長兼総務課長, 次長兼学校教育課長, 参事兼指導課長, 生涯学習課長, スポーツ振興課長, 総務課総務係長, 学校教育課学務係長
議 題	(1) 結城市総合教育会議設置要項の一部改正について (2) 平成28年度から令和元年度までの結城市教育大綱に基づく取組について (3) 結城市教育大綱の改訂について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
審議内容	別紙のとおり
問合せ先 (事務局)	結城市役所 総務部 総務課 総務係 TEL 0296-34-0402 FAX 0296-32-5917 e-mail soumu@city.yuki.lg.jp
そ の 他	

令和2年度第1回結城市総合教育会議

○日 時 令和2年10月23日 午前9時15分から

○場 所 結城市役所 第1委員会室

○出席者

(会議の構成員)

小林 栄 市長

小林 仁 教育長

北嶋節子 教育長職務代理者

中村義明 教育委員

岩崎 勤 教育委員

赤木信之 教育委員

(構成員以外の出席者)

総務部長，教育部長，次長兼総務課長，次長兼学校教育課長，参事兼指導課長，生涯学習課長，スポーツ振興課長，総務課総務係長，学校教育課学務係長

○議題（協議・調整事項）

(1) 結城市総合教育会議設置要項の一部改正について

(2) 平成28年度から令和元年度までの結城市教育大綱に基づく取組について

(3) 結城市教育大綱の改訂について

○総務課総務係長 定刻となりましたので、ただいまから令和2年度第1回結城市総合教育会議を開会いたします。

最初に、小林市長より御挨拶をお願いいたします。

○小林 栄市長（以下「市長」） 【挨拶 省略】

○総務課総務係長 小林市長，ありがとうございました。

続きまして、小林教育長より御挨拶をお願いいたします。

○小林 仁教育長（以下「教育長」） 【挨拶 省略】

○総務課総務係長 小林教育長，ありがとうございました。

本日が今年度最初の会議となりますので、自己紹介をお願いいたします。

小林市長と小林教育長には、ご挨拶をいただきましたので、北嶋教育長職務代理者から順をお願いいたします。

【北嶋節子教育長職務代理者，中村義明委員，岩崎勤委員，赤木信之委員の順で自己紹介 省略】

○総務課総務係長 ありがとうございました。

続きまして、事務局でございますが、総務部，教育委員会の順をお願いいたします。

【事務局職員の自己紹介 省略】

○総務課総務係長 ここで、会議に入る前に本日の資料の確認をさせていただきます。

【会議資料の確認 省略】

○総務課総務係長 それでは、早速会議に入りたいと思います。

議事の進行につきましては、結城市総合教育会議設置要項第4条の規定により、議長である小林市長にお願いしたいと存じますので、小林市長，よろしくをお願いいたします。

○市長 それでは、規定に基づきまして、議事の進行をさせていただきますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

○市長 今日の議題が3つございまして、まず議題1「結城市総合教育会議設置要項の一部改正について」は、会議の最後の事務局からの報告でお願いします。続いて議題2「平成28年度から令和元年度までの結城市教育大綱に基づく取組について」と議題3「結城市教育大綱の改訂について」は、事前に事務局から説明を受けられ、ご承知のことと思いますので、原案のとおり策定に向けて進めていくということによろしいでしょうか。

○全委員 よろしいです。

○市長 それでは、議題2と3につきましては、原案のとおり策定を進めていくということをお願いします。

本日は、教育委員会の皆さんと本市の教育について意見を交わすことのできるせっかくの機会ですので、時間の許す限り教育問題ですとか、5年後10年後に向けて、結城の子供たちの教育の在り方，あるいは学校の在り方，いろいろな面から、教育委員の皆様のご意見などもお聞きしたいと思っておりますので、意見交換を中心に進めていきたいと思っております。時間も限られたところでありま

すので、一つには学力向上のために、これからは人口減少と、子供たちの出生数もだいぶ減っております。そういった中で学校再編も含めて、学力向上と学校再編という一つのテーマでまずはお話しいただいて、さらには生きがいのある人生を送っていただくための生涯学習の点についても皆様と意見交換したいということで、2つを大きなテーマにしながらかお話を聞かせていただければと思います。

まず、現状の把握ということで、結城市内の子供たちの学力の現状といえますか、そういったところのご報告を教育長からどうぞお願いします。

○教育長 学力といったときに何を学力とするかというところが第一でございまして、当然知識や技能、これも大事です。国では学力を3つの視点から定めているところでございまして、知識、技能、さらには思考力、判断力、表現力、さらには学びに向かう姿勢、さらには人間性、そういうものの3点を学力と捉えているところでございます。その一部の評価として全国学力学習状況調査というのが全国的に行われているところです。今年度は残念ながら実施はされなかったところでございますが、そういうところを見ると、結城市の小学生や中学生の、小学6年生、中学3年生の学力については、国語はおおむね全国平均を上回っている。算数、数学については残念ながら全国平均を若干下回っている、そんな状況がございまして。また、質問シートも同時に実施されているところですが、そういう中では、非常に学校に対する肯定感というものは、子供たちの生活の様子、意識の様子というのは全国に比べてかなり高いレベルにあると感じているところでございます。実際には普通の学校での生活とかそういう部分でも中学校を見ても、かなり生徒たちが主体的に活動している状況かなと捉えているところです。資料もなしに突然お話をしているので十分でないところはあるかと思いますが、現状はそういうようなところかなと捉えております。

○市長 茨城県全体としてはどんな感じですか。

○教育長 茨城県全体も当初はやはり国語が良くて、算数、数学は全国と比べてかなり低い状況だったかなと。今はいずれの場合も全国を上回ってきたと、全体としてはそういう状況になっているところでございます。

○市長 知事も、だいぶ中高一貫に力を入れて、教育の多様性をいろいろやってる感じがするんですけどね。

○教育長 いま高校改革なども行っていて、附属中学校、中高一貫で進んで、茨城県はかなり押し出していますが、小中学校の現場サイドからすると本当に附属中学1学級の、それでいいのかという、さきほど市長から学校規模とかそういうものと学力ということがありましたが、現場にいた人間としては、ちょっとその辺は危惧しているところですね。附属中学校へ1学級だけ中学1年生の募集をかけて、来年度開校する水戸一高、土浦一高の付属中学は2クラスなんですね。でも去年開校したところは、付属中学は全部単学級です。

○市長 下館一高はどうでしょう。

○教育長 もう開校しており、1学級入学しています。さらに1年後に水海道一高と下妻一高がやはり1学級の附属中学校ということです。その報道を聞いた時には、

これが適正かどうかというのは非常に悩ましく思ったところです。やっぱり適正規模を見たときに学力を見るのか、それとも学校生活とかそういう部分で考えるのかはなかなか難しいと思うんです。

○市長　　そうすると、小学生が中学受験を目指して学習塾とかに行きだしているんですかね。私立中学校に行くのは結城ではまだ少ないのかな。

○教育長　　まだ私立中学校に行く子は少ないですね。地元の学校で、という意識が強いと思います。

○市長　　総和高校が割と早く中高一貫校になって、古河中等教育学校には結城から行っている子が結構多いと聞きますが。

○教育長　　そうですね。古河中等には例年10人程度ですかね。10人弱ぐらい。今度下館一高が開校しましたので、そちらも同じぐらいの状況です。受験の状況を見るとやはり関心は高まっているのかなと。

○市長　　茨城県ぐら이다よね。結構中高、公立をやりだしたのは。

○教育長　　これだけのたくさんの中高一貫を進めているのは茨城県以外ではちょっと。

○市長　　ないよね。栃木県はないよね。

○教育長　　はい。

○市長　　この結城という土地柄というか地域からすると、下館一高、再来年開校する下妻一高、古河中等とね、この3つがやはり行く可能性が高くなってくるね。確かに小中学校の先生方と、高校の先生はちょっとなんとなく風土が違うような感じもあるからなかなか難しいような気もしますが。そうするといま下館一高は、中学生の授業は中学校の先生方が行って、高校の先生と一緒にやってるわけですか。

○教育長　　そうですね。中学校籍だった教員が附属中学の方に異動したり、または高校籍の先生方が中学校の方でやったり、また、それだけでなく両方兼務するというようなケースもあるようです。

○市長　　そういうことを含めて、子供たちが頑張ることによって学力の底上げが図れるかな、どうだろうね。最大でも将来的には30名ぐらいは小学校から中高の方へ入る可能性があるということかな。

○教育長　　そこまで多くなるかどうかは、いずれにしましても、たくさんの選択肢が増えてくる現状から考えれば、そういう意識が高まっていくのかな。

○市長　　結城の南部の方の子供たちが減ってきているというのが課題としてありますが、この間、五霞町で小学校二つが一緒になって、小中一緒に、同じ敷地でやるという話を聞きましたが。

○教育長　　中学校と西小が、隣り合ってるぐらいなんですよ。その辺が望ましいのではないかというような報道がされていて、まだ決定していないようです。

○市長　　そろそろ結城の方もね、議論を皆さんとしながら南の方の小学校、中学校を含めて、学校の再編あるいは区域の見直しみたいなことも含めながら、これからどんな風にあるべきかを、ちょっと皆さんとね、話をしていきたいなと思います。この間、新聞報道でも妊娠されている人がだいぶ減ったと報道があるので、将来的には少子化の傾向はまだまだ終わらないという感じはするので、江

川北小，江川南小，山川小，上山川小，また，絹川小も含めるかどうかはいずれにしても，だいぶ児童数が減ってきていることも考えていかなければいけないので，どうですか，みなさん，アイデアというか何かあれば。

○赤木信之委員（以下「赤木委員」） ちょっと話はずれてしまうかもしれませんが，いま子供たちの数が減っているということで，結城の教育の特徴というか私たちOBとして見た場合に，特別支援教育が非常に充実している。特別支援学級が他市町から比べても数が多いということもあるんですが，裏返せばそれだけ支援が必要な子供，支援が必要な家庭が多いのかな，と思うんですよね。中高連携，中高一貫なんてことはかなり言われているんですけども，現在保幼小連携ということでかなり会議などを持っていらっしゃるようなんですけども，もうちょっと具体的に地域の中で，ある家庭に入り込んだり，極端に言えば家庭教育支援員とかあるいは就学前教育を充実させて，その家庭での教育の在り方をどんどん地域に広げていくことによって，子供たちの学ぶ意欲，学ぶ姿勢というものを育てていくことが，これからの大きな課題なのかな。特別支援学級は多いけれども，その裏にあるところに何か食い込めるような施策というものが，これから必要になっていくのかなという感じがするのですが，そのあたりいかがでしょう。

○市長 一時期よりも増えているよね，支援が必要な子たちがね。結城は，実際に特別支援学級というのは，どこの学校に，ほぼ全部の学校にあるんですか。

○教育長 小中学校全てに特別支援学級がございます。知的，情緒，自閉，さらには言語と障害の種類は様々ですが，全ての小中学校に特別支援学級があり，中学校もそうですが，特に小学校も規模の大きいところは特別支援学級も非常に学級数が多いというような状況でございます。

○赤木委員 それについても，お医者さんからこの子は障害があるということで診断された場合にはもう持って生まれた特性として考えなくちゃいけないと思うんですけども，それにいっていないんだけれども，もうちょっと家庭で上手に教育すれば普通学級で充分にやっていけるんじゃないかっていう子もかなり在籍しているのではないかなという，あくまでこれは想像なんですけれども，そのところの支援を，何とかやる方向はないのかなという風を感じているところなんです。

○市長 割と最近の子育て中の親御さんの中にはね，やっぱり自分で抱えちゃって，なかなか相談する相手がいないとか，近くにおじいちゃんおばあちゃんもいなければ，自分で抱え込まざるを得ないというかね。ましてや同じようなお母さんたちにも話せることと話せないことが多分いろいろあるんだろうと思うんですけども，確かにそういうとき気軽に相談に乗ってもらえる家庭の教育支援の体制が用意されていれば，いくらかでも精神的な負担がなくなれば，そういった子供の成長をサポートできるような，親だけじゃなく周りからもサポートできるような体制が必要かなと思いますね。就学前の，赤木さんが仰った就学前の教育の支援だったり，それと併せて放課後の，普通の学童じゃ，ちょっと受け入れられない児童を受け入れる放課後等デイサービス，そういうところの

需要とか要望とかは結構上がってきていますか。もっと充実させてくれとかそういうのは。

○次長兼総務課長（以下「総務課長」） まだ数が限られているところでは、利用する人がちょっと制限していたというところがありますけれども、最近では、なるべく利用するような形になってくると、1か所でずっとという枠はなくて、何か所かを併用している方が工夫しながら、需要と供給のバランスが取れているような状況です。ただ医療児ということで、短期入院が必要な子たちを受け入れる放課後等デイサービスというのはまだ不足している状況です。

○岩崎勤委員（以下「岩崎委員」） 市長、最初に小中一貫のことでちょっと懸念があるんですが、例えば、四川地区において単純に子供の数が少なくなるから江川北小と江川南小を一つにするのか、それとも5年後、10年後を見て四川地区を一本化していく構想であるのか、そういう市の方針というのができてくれば持って行き方というのがいろいろあると思うんですけども、四川地区の場合は、各小学校の区域ごとに地域性が、特徴があって、単純にじゃあ少ないからこことここを一緒にするといういろんな反発じゃないですけどそういう意見が出る可能性が高いと思うんですね。それを大きな何年か後に一つに、そのために前段としてここここは当面一つにしましょうという話ならば、順々にいけると思うんですけども、市のそういう大きな構想が明確に出てくると我々もそういう風に地域の保護者とか地域の人に話しやすいと思うのですが、いかがでしょうか。

○市長 そうですね、最終的なこういう風な形にしたいという将来像をお示しをして、それまでのプロセスを、地域の人達にこういう風に進めていくというのを提案しないと、やはりなかなか御理解をいただけないものだと思うので、私も一応イメージは持っているんですけども、本当に将来こんな形にしたいっていうのを、いま役所の中でも、公共施設の再配置なんかも含めて、当然学校も一つにすれば、学校も空きますから、それをどうするか考えながら行かないと、例えば江川北小でも江川南小でもそのまま残っても困るので、それをどう利用するかも含めながら、将来的に地域の在り方も含めて、学校っていわばその地域の核だから、そういった学力向上の面でもそうなんですけども、地域の在り方そのものにも大きな影響を与えるので、将来像をこんな風に行行政としては考えていますよというお示しを早めにして、そういった地域の在り方も、皆さんに今後どういう地域づくりをしていくか、その中で閉校する学校をどう利用していきましようかということを含めながら行かないと、せっかくある財産ですので、そういうものをどう活かしていくのも考えていかなきゃいけないなという風には思っています。私は南にひとつ大きな教育拠点、これは小中学校も含めて、実は保育園もね、山川保育所と上山川保育所もだいぶ老朽化している問題もあるし、それも含めて幼児教育から中学校まで、一つ大きな拠点を南に作るというのかなという、具体化はもちろんしていないんですけども、そういうイメージをしている。幅広い層と一緒に学ぶ場があって、そうすると上の子が下の子の面倒を見るというか、教える側にも回ったりとかして、そうするといろんな面で

相乗効果が出るかなと。たくさんの世代の違う子供たちが一緒にいるというのはいい効果が生まれるかなと思っているんです。ちょっといろんな調査も含めて、逆に日本で結城が初めてやるくらいの教育環境を整えるといった、そういうトライをしてもいいかなという気もするんですけどね。

○岩崎委員 小中化，大規模化，その意見とともに集約する構想の中で，学校の財政的な経営の効率化ももちろんあると思いますが，先生方の働き方が大規模にすることによって負担増となってしまったのでは，やはり子供たちの個々の個性とかを見る余裕がなくなってしまうと思うので，大規模に集約することによって先生方もより効率良くなって負担が減って，子供をより良く，個々を見られるような，そういうのも，イメージ的な構想の中に取り入れていただければ，それがいい結果に結びつくのではないかと私は考えているのですが，いかがでしょうか。

○市長 いま盛んに働き方改革と言っていますけれども，本当に小中学校，特に中学校は，授業以外の負担が多いとずいぶん聞いていますので，本当に授業なり，子供の教育に集中できるような環境づくりというのが非常に大切だと思っていますし，これは生涯学習の面とちょっと関わってくるんですけども，私の理想としては，今，鹿窪運動公園は指定管理者ということで文化・スポーツ事業団がやっていますけれども，これもゆくゆくは民間の，例えばスポーツ関係の事業者を募集をして，指定管理をやってもらうような，あるいはヨーロッパとか南米のようなクラブチームがたくさんあって，そういうところは基本的にはいろんな生涯スポーツを受け入れているようなクラブチームがあるので，そういった，すぐには言わないけれども，中学校なり，スポーツ少年団なりを受け入れてくれるクラブチームに指定管理もやってもらいながら，生涯スポーツをお任せしながら，そうすると中学校の先生方も顧問をやられている方もたくさんいらっしゃるんですけども，そういった負担軽減も図りながらというのが私は理想かなと思っているんです。そういった意味では生涯学習も含めて，全てを教育委員会でやるということではなくて，いろいろな民間の力を借りながら，企業もそうだけれども，そういったところから協力をもらいながらやっていると幅広い人材交流にもなっているのかなと思っているのです。どうぞ，中村先生。

○中村義明委員（以下「中村委員」） 考えることが多くて，自分の中でもなかなか意見がまとまらないのが実情ですよ。ただ，やれることをしっかりときちんとやっていくという，そういう集団だと思うんですよ，行政も含めて。で，何が必要かということだと思うんですが，私は，実は指導課でお世話になっていた時に，私の前からSSW，スクールソーシャルワーカーがいて，素晴らしいと思ったんです。大きく言うと生徒指導に関わる，例えば不登校の児童生徒に対するサポートとか，そういうことをやっていくシステムなんですけども，これは茨城県内はもちろんのこと，全国的にも先駆けだと思うんですよ，結城市が。これは大手を振って言える。実際に機能してたわけですよ。それと赤木委員から出た特別支援教育，これもすごいです。これも茨城県下あるいは全国で有名で

すよね。それをずっと維持しているというのがすごいと思うんですよ。それは、一人一人の子供なり家庭なりを結城市がしっかり見て支援していくという姿を変えてないということだと思うんです。これは素晴らしくて、私はこれが教育の基盤だと思うんですよ。学力向上ってものすごい広いテーマですけども、基盤には子供なり家庭が安心して生活を営めるというのが最低にないと絶対にできないんだと思うんです。それと私が思っているのは、子供なり親御さんなりと直接指導に当たる教員と信頼関係が構築されている状況にないとだめなんです。そのためには何をするかですが、例えばSSWの働きとか特別支援教育とか大きな働きを持っていると思う。いま統廃合とかの問題も出てきましたけど、難しい問題だと思うんですね。ただ、私なんかは、そこに何を基盤に置いたらいいかとなったときに、子供にどれが一番いいのかなと思うんですよね。今その一つと言われている規模の小さな学校ですと、まず多くの同じ世代の子供との学びあい、競い合いがない。そうすると今度は社会に出ていったときに、小さなコミュニティで学んだものが大きなコミュニティの中で本当にやっていけるかどうかという問題が出てくるんですよね。中には上から圧力がかかってくる、そういったときに、それをはねのけるんじゃなくて受け入れながら、意見なりを共有しながら協調していけるという生活していける力を付けるためにも、小さな集団よりも、大きな集団の中で小さいうちから揉まれてきたほうが絶対にいいことに間違いないんです。そういうことを考えて大きな集団の教育現場を作っていく、そういう風に一人一人の子供のことを考えたらいいと思うんですよね。あとは市長からさきほどありましたけども、教育委員会だけじゃなくてということも、もちろんそうですよね。今のこの前の話の中で、生涯学習が求められている分野、範疇はこんなに大きくなってきたんですね。そうなったなら行政もパンクすると思うんですよ。課長がいますけども。その中に実質はこういう場所に子ども福祉課という部署がありますから、そういった組織も加わってもいいのかなと思うんですよ。というのは幼児教育はものすごく大事だと思うんですよ。私は去年かな、ある保護者から就学時健康診断のときに吟味にかかっちゃったんですよ、それで心配しちゃって、うちの子供残されて何かされているんですけど、別に何もされないんですけどね。吟味と言って再検査するんですよね、これは非常にいいことだと思うんです。これをきちんと話してあげて、安心させてあげられれば良かったんですけど、心配したんですね。私は、大丈夫です、とお話ししたんです。そういうときに、安心させてあげるようなシステムをもう少し作ってあってもいいのかな、と思うんです。忙しい中でやるのでなかなかそう行かなくなってしまうのかもしれないですが。あとネグレクトの問題とか、そういった大きな問題ですとか、少子化になっていく中で一人一人のお子さんの存在がものすごく大きいと思うんですよね。小さい子たちがネグレクトに遭って、悲惨な場合には、これからの希望が絶たれてしまったりとか、そういうことは絶対あってはならないと思うんで、そういった部分では行政の関わりも必要になってくるのかなと思います。話がまとまらないですが、とにかくいろんなことをこれから考えていかなければいけないなとは思

います。一つ明るいニュースが先ほどありましたけど、結城の子供たちは学べる力が、国語力が結城市はすごく高いんですよ。なんで国語はいいのにほかの教科がだめなのか、これはいろいろありますよね。子供たちはベーシックの能力はあるんですよ。算数でも理科でも社会でも言語で考えるわけですから、絶対に間違いなくベースには子供たちの力は育っているんですよ。それをどう生かすかというのは私は教員だと思うんです。教員の中でもっと切磋琢磨して、指導方法を学ぶとか、例えば指導課の方で指導してもらおうとか。また、学校の中には教育研究会という組織もあります。そういうところに視点を当てて、これだけ国語はいいのに、何で自分が担当している理科はだめなんだろうと反省しなきゃいけない。そういうことも投げかけてあげたい、そういうのも行政の仕事かなと思うんですけどね。私が現場にいた時も、昔から考えていて、教員の中で競争意識がないんです。小学校は専科ではないから別にしても、中学校では教科ごとに、学級数が少ないものもあるかもしれませんが、各教科に1年担当、2年担当、3年担当と割り振りががありますよね。その中で各担当との競り合いとか同じ教科でも、あるいは他教科との競り合いとか。国語はあれだけ頑張っているのに、俺たちがこの成績で情けないという担当者がいたら素晴らしいと思うが、そういう思いがあまり感じられない。やっぱり今の先生たちが競争のない生活の中で育ってきたせいかもしれない、それは何とも言えないですけど。いろんなことを考えながら最初に申し上げたように、今何ができるかというのをきちんと機能させる、ということが先決だと思います。どこかでターゲットを絞ってくださるのもいいことかなと思いますけど。まとまらない話で。

○市長

たくさん考えなくちゃならないことがありますよね。コミュニケーション能力というか、さっきもちょっと出たお母さん方に安心感を持たせるには、一つ先を読んであげると安心するところがあると思うんですけども。全般的に教育委員会に限らず役所でいろいろ問題が起きるときって、大概コミュニケーションで問題が起きるんですよ。市民の方のいろんな話を聞くときにきちんと話を聞いてあげないと、コミュニケーションを上手にとっていけば問題の大半は起きないというか解決できるくらいのことなので。人間社会は大概コミュニケーションでほぼ成り立っているようなところがあるので、ぜひ現場にいる先生方も子供達とのコミュニケーション、同僚の先生方とのコミュニケーション、教頭先生、校長先生方とのこういうのをきちんと、大概の先生は大学卒業してすぐに先生になっちゃうから社会人になって上下で揉まれることがそうそうないですから、コミュニケーション能力を高めるということと、中村先生からの切磋琢磨はある意味昔よりなくなってきているかなあ。

○北嶋節子教育長職務代理者（以下「北嶋委員」） 幼児教育に関してなんですけど、小学校1年生になると家庭教育学級があって、2年生から自主というのがあるので学びの場があると思うんですけども、就学前の子供たちは、勉強のことはともかく、生活面で小学校1年生に入って、義務教育を受けるにあたって、初めて小学校に入学させる親御さんなどは不安なところも多いと思うので、秋の身体検査と2月の就学時説明会のときの2回ぐらいではなく、4月の入学したと

きまでにそれぞれの家庭で子供に身につけさせてもらいたいこととかを勉強会みたいなのを就学前の家庭教育学級のようなものを年に2回でも3回でもやっていただいて、意識の部分ではどの家庭の保護者が同じような状態で入学させるという風にしていただければ、先生も楽し、子供たちも楽し、親御さんも安心して入学させられる。保育所なんかでトイレの仕方など、今は1歳児から預ける家も多いので仕方がないですけど、トイレのことは家で全然しつけないで、お金払っているんだから保育所の先生がやってくれて当たり前、という考えの親御さんもいるので、基本的な生活習慣みたいなのをきっちり家庭でつけていってもらいたい。そういう学びの場があったらいいかなと思います。もうひとつは、さきほど市長の挨拶にあったんですけども、ランドセルを皆さんにプレゼントするというのは、どの辺のこだわりでそういうことをやったのかお聞きしたいんですけども。来年1年生に上がるお子さんの親御さんからお聞きしたいんですけども、来年度の入学式の日にはランドセルを貰うんですか。

○次長兼学校教育課長（以下「学校教育課長」） いま現在では入学式の際にプレゼントするという形で考えています。

○北嶋委員 全員にですか。そうすると、春休みの間に学校にランドセルを背負って登校の練習をさせたいので、入学式の日には貰うのでは遅いのでどうなっているのかと聞かれたんですね。何回かここを歩いてみて実際に荷物を入れて歩いてみると、ほとんどのお母さんたちがやっていると思うんですけども、それをできれば春休みの間にやりたいので、入学式はできれば代表の方が貰って、各家庭には先に渡った方がありがたいと。そういうことは私もわからなかったの。あと辞退してもいいという話もあるみたいで、辞退しますという話になったら、辞退ですね、貰わないでいいんですね、で終わりなのか、代わりになにがしかの物がもらえるのか聞いてもらいたいと言われたので、どのようになっているのかお聞きしたいのですが。

○市長 ランドセルの支給については、選挙の公約にも掲げたんですけど、なぜかという、一つには経済的負担を軽減させるという意味、それからおじいちゃんおばあちゃんから楽しみを奪うなという話も聞こえてきたんですけども、ただ小学校1年生で、極端に言うとランドセルも高価なものからいろいろあると聞いていたので、まずはスタートラインを一緒のランドセルでスタートしてもらいたいと思って。だんだん子供たちが成長するにしたがって、否応なく経済格差を感じてくると思うんです。それでも、みんなと同じランドセルでスタートしてほしいなと思ってランドセル支給を始めたんです。入学のために練習のために早いほうがいいという話は・・・。

○教育長 間に合うのか、現実的に。

○市長 物は間に合うのかな。

○学校教育課長 なんとか間に合うかなとは思いますが、学校入学前ですと、接触する機会というものが、各家庭になってしまうので、学校に事前に取りに来ていただくのが一番いいのかどうか検討しないと、お配りする方法を考えたいと思います。

- 教育長 確かに、就学前におうちの人と通学路を歩いて登下校の練習をするというのは、勧めている状況でもありますので。
- 中村委員 いいことですよ。いま、それだけ積極的に考えてくださる親御さんだったら、安全教育も。
- 北嶋委員 山川保育所の園児さんなんかは、これから歩いて通わなくちゃいけないから今は車の送り迎えなんですけど、お迎えのときは親御さんが歩いて来て、歩いて帰って登下校の練習をしている親御さんもいるんですね。
- 市長 希望者には、取りに来てもらったらいいのでは。ちょっと検討してみてよね。
- 北嶋委員 あと就学前の家庭教育学級みたいなのを。
- 生涯学習課長 現在生涯学習課の就学前の家庭教育に関する学習ですとか講座ですけども、全体で3種類行っておりまして、基本的には市のホームページとか市のお知らせ版で募集する形で講座を開設しています。ひとつはコモンセンス・ペアレンティングと言いまして、これはいわゆる子供に対する効果的なしつけとか、問題行動をなくすようなしつけの方法を学習していただく講座になります。もうひとつはノーバディーズ・パーフェクトということで完璧な親なんていないということで、こちらはどちらかというサロン形式、対話形式で、日頃自分たちが子育ての中で抱えている悩みですとか、ここをほかの親の方はどうやっているんだろうということ話し合うことで情報を共有して、自分でも考え方を楽になってもらおうという講座で、最後は就学時健診のときにお子さんが健診を受けている間に、保護者の方に集まってもらって子育てに関しての講座を。この3種類の講座を行っております。
- 北嶋委員 最初の2つについては参加者はどれくらいいるのですか。
- 生涯学習課長 令和元年度のコモンセンス・ペアレンティングは5名から10名で全9回、ノーバディーズ・パーフェクトにつきましては大体10名前後ということで昨年度は6回開催しました。
- 市長 その辺の充実も少し考えてね。それとランドセルを辞退される方はその分を別にやるということはないんでしょ。
- 学校教育課長 辞退すると表明されている方は今現在こちらにおりません。なおかつ別のものというのにも対応は現在は考えておりません。
- 教育長 間に合わないときに辞退するという事かな。
- 北嶋委員 どこに載ってたかわからないけど辞退しても良いと書いてあったので、すでに買った人が2つ持っていてもしょうがないから、ということかどうかわかりませんが、辞退するとなにがしかの物がもらえるんでしょうかと、そんな風におっしゃってたんですね。
- 学校教育課長 辞退につきましては、4月に色とかを決めるアンケートを取っておりますので、その中に辞退とかという項目もありました。どうしてもこのメーカーのこれが欲しいという方もいる、という想定もありましたので。
- 市長 その時に、辞退はなかったんでしょ。
- 学校教育課長 なかったと記憶しています。
- 岩崎委員 市長、一つ今年の教育の現場で子供たちの成長の中で私が感心したことがあ

りまして、タイにランドセルを送ったことなんですね。もちろんその事業自体も評価はあるんですが、私が感心したのは、その子の気付き、その構想、実現するためのプレゼン、実現するためにライオンズクラブなどを外部を巻き込んで、要するに地域協働だと思えるんですけども、そういうことで、自分の思いを単なる構想・思いだけでなく実際に実現したのが素晴らしいと思うんですね。子供たちは、これができるんじゃないかというのが大小含めていろいろあると思うんですが、そういうのが地域協働とかそういうのがうまくつながっていく方法があって、いくつかそういう事例が出てくると、子供たちもそこからやる気が出てくると思うし、ああいう構想ができるのは企業に就職しても即戦力になると見えるので、忙しいと思いますが、うまく地域協働を活用していただいて、子供たちの思いを実現できるように、そういうものを少し考えていただけるといいのかなと思います。

○教育長 補足しますと、ロータリークラブで実施しているタイへ利用済みランドセルを贈呈する事業があって、自分の使っていたランドセルを是非そこへ寄贈したいということで、そのことの経緯を少年の主張で県で発表して県の教育長賞をいただいたんですね。子供の思いが育っているということでございました。

○市長 いろいろな面に関心を持つきっかけになるし、素晴らしいよね。そろそろ時間になりましたので意見交換をここで終了させていただきます。それでは、あとは事務局の方でお願いいたします。

○総務課総務係長 私の方から「議題の1 結城市総合教育会議設置要項の一部改正について」のご報告を申し上げます。要項の核たる部分の改正はございませんが、総合教育会議を所管する部署が市長公室から総務部になりましたので改正を行いました。改正内容が行政機構改革に伴うものであることから、4月1日付けで改正しております。

報告は以上でございます。

それでは、予定された議題についての審議が終了しましたので、以上で第1回結城市総合教育会議を閉会させていただきます。

午前10時16分 終了